



## 周産期医療研究室の紹介

現在遺伝医療センター、産科と協力し研究を行っています。

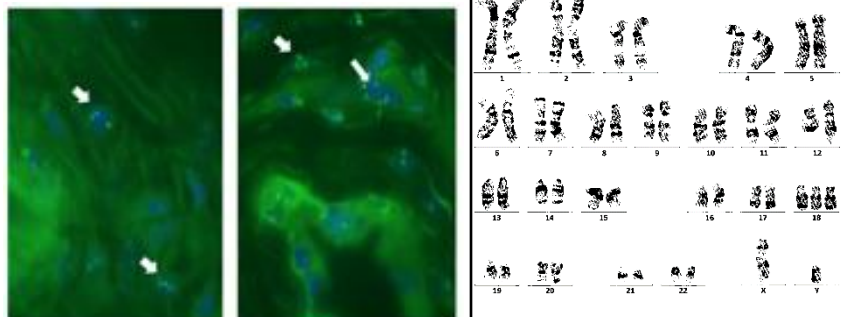
2015年に無侵襲的出生前診断（NIPT）が開始されました。この検査は、母体血に含まれる胎児の cell free DNA を解析し、トリソミーのスクリーニングを行う検査です。しかしこの cell free DNA は厳密には胎盤絨毛であるため胎児の染色体ではありません。このため偽陽性、偽陰性が頻度は低いですが存在するため確定検査ではありません。また、当院は総合周産期母子医療センターであるためハイリスク妊娠の割合が非常に高くなっています。特に胎児発育不全、胎児異常の症例が多くなっています。胎児発育不全児、胎児異常児は染色体異常を持つ可能性が、正常児に比較して高くなります。

このことを背景として主に研究を行っています。

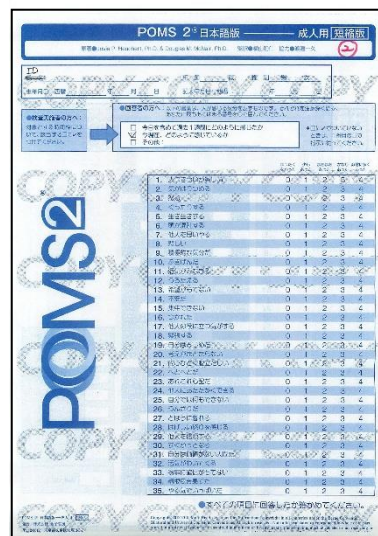
## 研究内容

- 1 NIPT 受検妊婦のカウンセリング後、結果を聞いた後の気分・感情を測定するテストを行い、妊婦の心理を研究しています。
- 2 NIPT では約2%の偽陽性、判定保留が認められるため、この原因の検索を細胞遺伝学的に研究しています。
- 3 胎児発育不全症例、胎児異常症例に関しては胎児リンパ球のみならず胎盤の細胞遺伝学的検査を行っています。

胎盤：間質細胞FISH(D18Z1)



(染色体解析室 曾根美知子, 南原しずえ, 射場智美氏解析)



気分・感情を測定するテスト

- 4 大阪母子医療センターの岡本信彦先生とも連携し、未診断疾患イニシアチブ（IRUD）協力機関になり診断が困難な新生児、乳児における診断を行っています。

## 研究室メンバー

周産期研究室室長：前田和寿

森根幹生 近藤朱音 深野智華



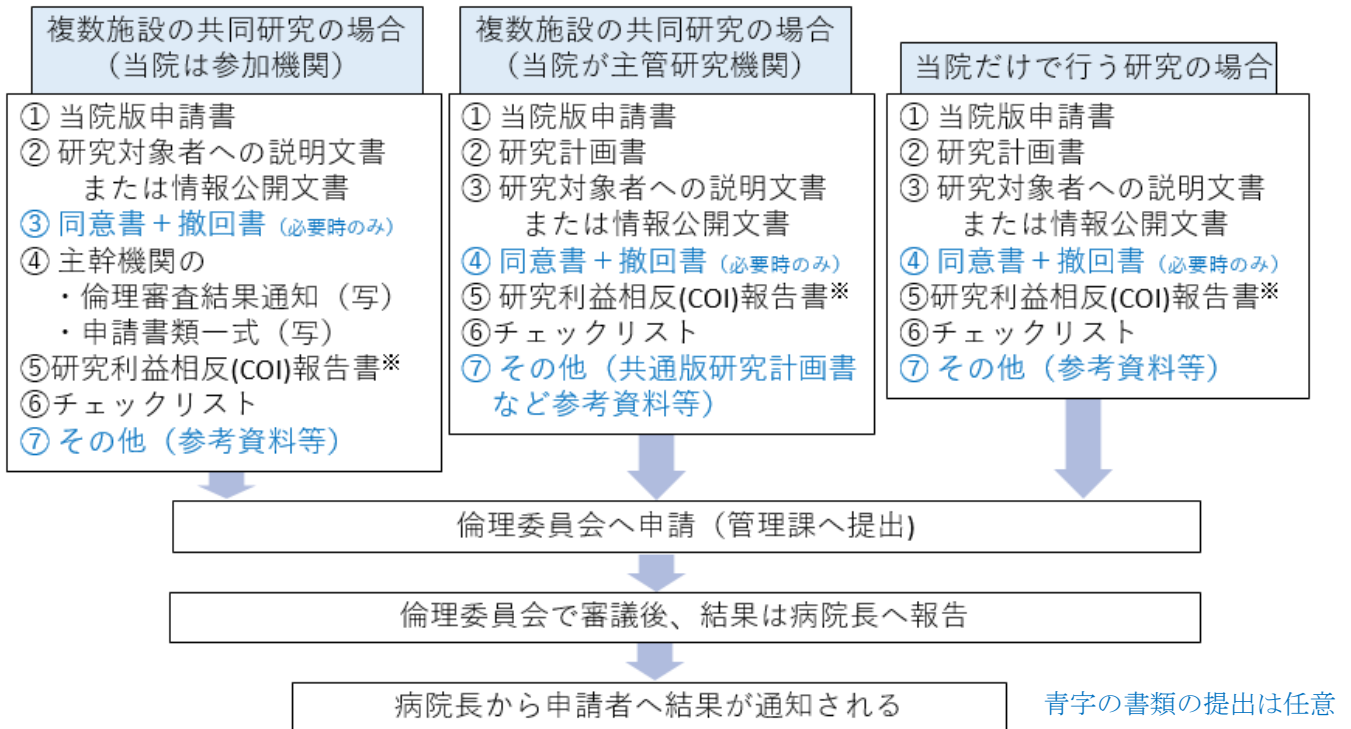


## 臨床研究の基礎知識講座 第二回

当院における倫理委員会への申請手続きについてお知らせいたします。

人を対象とする医学系研究を行う場合は、**実施前に必ず**倫理委員会への申請が必要です。

◆ 新しく人を対象とする医学系研究を始めようとする場合は、下記の通り倫理委員会へ申請して下さい。



※利益相反自己申告書は代表者と当院における共同担当者全員分が必要になります。当院以外の共同担当者については提出不要です。

◆ 承認された研究内容を変更したい場合は、変更申請の手続きが必要になります。

「四国こどもとおとなの医療センター倫理審査承認事項変更願」を作成して管理課へ提出して下さい

◆ 申請書、研究利益相反 (COI) 報告書、変更願はサイボウズからダウンロードできます。

申請書と変更願：サイボウズ—文書管理—院内規程—倫理委員会規程

研究利益相反 (COI) 報告書：サイボウズ—文書管理—院内規程—研究益管理審査



## 現在進行中の治験について

11月のIRBで当院での実施が承認されました！

責任医師：岩井朝幸先生

対象疾患：Respiratory Syncytial (RS)ウイルス感染症

対象年齢：28 日齢～36 カ月齢の入院患児

治験薬/投与方法：lumicitabine (JNJ-64041575) 経口投与

開発相/デザイン：第2相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験

RSウイルスにはまだ治療薬がありません。今回の治験は lumicitabine が治療薬になるか否かの開発になります。

